

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	名張市立梅が丘小学校																														
コース	学校支援コース																														
活動・研究のテーマ	ユニバーサルデザイン（UD）の視点で授業を改革する																														
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1. 活動に至る経緯</p> <p>本校の児童は、多くの児童が落ち着いて学習に取り組むことができているが、授業の中で、何をしてもいいのか分からない児童や、何をしてもいい分からないため授業に集中できない児童、自分の考えを伝えることを苦手としている児童、課題に対して理由づけて考えを書くことが難しい児童などの姿が見られる。</p> <p>本年度も引き続き「授業のユニバーサルデザイン化」に取り組み、だれもが「わかった」「できた」授業となるよう国語科、算数科を研究領域として、授業改革していく。</p> <p>2. 活動・研究のねらい</p> <p>授業にユニバーサルデザインの視点「視覚化」「焦点化」「共有化」を取り入れることで、すべての児童が「わかった」「できた」を感じる授業を創ることをねらいとし、下記の仮説に基づき活動・研究を実施した。</p> <p>仮説①「焦点化されたためあて（課題）を提示することで、児童全員に主体的・意欲的に授業に参加する力が身につく。」</p> <p>仮説②「ペア学習を中心とした共有化を図ることで、相手に自分の考えを伝える力が身につく。」</p> <p>3. 活動内容</p> <p>〈活動の経過〉</p> <table><tr><td>4月</td><td>計画作成</td><td>研究・研修計画の作成</td></tr><tr><td>5月</td><td>校内研修</td><td>「授業のUDとは」「支援の必要な子への手立て」</td></tr><tr><td>6・7月</td><td>校内研修</td><td>学習環境づくり 研修図書 選書</td></tr><tr><td>8月</td><td>校内研修</td><td>講師招聘校内研修「学級経営のUDと算数授業のUD」 教育センター研修①子どもたちが安心できる居場所について考える 教育センター研修②「チームで考える不登校の理解と対応」 教育センター研修③「特別支援教育の視点からの授業改善」</td></tr><tr><td>9月</td><td>授業事前検討</td><td>指導案検討</td></tr><tr><td>10月</td><td>授業実践</td><td>事後検討</td></tr><tr><td>12月</td><td>校内研修</td><td>授業事前検討 指導案検討</td></tr><tr><td>1月</td><td>視察研修</td><td>関西学院初等部「授業のUD研究会」</td></tr><tr><td>2月</td><td>授業実践</td><td>事後検討</td></tr><tr><td>3月</td><td>研究のまとめ</td><td>成果・課題等の総括</td></tr></table> 		4月	計画作成	研究・研修計画の作成	5月	校内研修	「授業のUDとは」「支援の必要な子への手立て」	6・7月	校内研修	学習環境づくり 研修図書 選書	8月	校内研修	講師招聘校内研修「学級経営のUDと算数授業のUD」 教育センター研修①子どもたちが安心できる居場所について考える 教育センター研修②「チームで考える不登校の理解と対応」 教育センター研修③「特別支援教育の視点からの授業改善」	9月	授業事前検討	指導案検討	10月	授業実践	事後検討	12月	校内研修	授業事前検討 指導案検討	1月	視察研修	関西学院初等部「授業のUD研究会」	2月	授業実践	事後検討	3月	研究のまとめ	成果・課題等の総括
4月	計画作成	研究・研修計画の作成																													
5月	校内研修	「授業のUDとは」「支援の必要な子への手立て」																													
6・7月	校内研修	学習環境づくり 研修図書 選書																													
8月	校内研修	講師招聘校内研修「学級経営のUDと算数授業のUD」 教育センター研修①子どもたちが安心できる居場所について考える 教育センター研修②「チームで考える不登校の理解と対応」 教育センター研修③「特別支援教育の視点からの授業改善」																													
9月	授業事前検討	指導案検討																													
10月	授業実践	事後検討																													
12月	校内研修	授業事前検討 指導案検討																													
1月	視察研修	関西学院初等部「授業のUD研究会」																													
2月	授業実践	事後検討																													
3月	研究のまとめ	成果・課題等の総括																													

<研究の内容>

「友だちの思いを受け止め、自分の考えを表現できる子どもの育成」を目指し、国語科、算数科を研究領域として研究を進めてきた。授業のユニバーサルデザイン化の三要件である「焦点化・視覚化・共有化」の理論に基づき、どのような支援を行えば子どもたち全員が授業に主体的に参加できるかについて検討してきた。今までも授業のめあての提示を行ってきたが、「今日は何を学習していくのか。」「今、何の学習をしているのか。」が分からず、授業に参加することが難しい児童も少なからずいた。そこで、本時の流れを視覚化することを統一した。そのことで見通しを持って安心して学習に取り組むことができる児童が増えた。また、めあての提示にも留意した。「～～について考えよう。」と提示することで、児童は何をどのように考えればよいか分からない児童もいた。具体思考動詞を示すことで、すべての児童が「今日は何を学習するのか。」を理解（課題の共有化）し、授業への参加度が高まった。

また、タブレットを活用することで、自分の考えを表現することが難しかった児童が、どのように考えているのかを友だちに伝え合う場面が見られるようになった。挿絵、資料の並び替えやセンテンスカードの色分けなどの学習活動に取り組みやすくなり、友だちと意見を比べ、共通・相違を見つけ対話を促すことができた。

理解の共有化を図るために、授業の中で小刻みな表現活動を取り入れた。手立ての一つとして、モデル発言に関連付けて児童の発言を促す発問を取り入れた。「再現（Aさんが言ったことをもう一度言える？）、解釈（Aさんが言ったことって、どういうこと？）、想像（Aさんはなんで〇〇を選んだのかな？）、具体化（Aさんが言ったことって例えばどんなこと？）、抽象化（Aさんが言いたいことは、つまりどういうこと？）、批評（Aさんの考えのいいところは何かな？）」などの発問をすることで、友だちの考えを受け止め、理解の共有を図った。

校内研修会では、「教育のUD化を実現する3つのcan～学級経営のUDと算数授業のUD～」と題し、講師（神奈川県小田原市教育委員会 上條大志指導主事）から、UDの基本的な考え方とその実践について講話を聞く中で学びを深めた（8月）。また、市教育センターの3つの研修会を校内研修会として位置づけ参加した。

1月開催の「授業のUD研究会 in 関西」に3名の教職員が参加し、授業のユニバーサルデザインの実践について学んだ。

4. 子どもたちへの効果

授業のユニバーサルデザイン化を図ることで、児童アンケート「国語は好きですか。」に全校の約80%の児童が肯定的な回答をしている。今年度の全国学力学習状況調査児童質問紙「国語の勉強は好きですか。」「国語の授業の内容はよくわかりますか。」の項目では、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答では、県平均、全国平均を上回り、国語への主体性が高まってきている。しかし、自分の考えを伝えるという点では、依然として課題が残る。そのため、授業の中で意見を共有する場の構造化や、児童同士の考えをつなげていく発問の工夫、意見を可視化するためのタブレット端末の活用方法の検討などを進めていかなければならない。算数については、本年度領域を加えたところであるので、引き続きの研究が必要である。

